

報告症例 記録用紙

補綴歯科分野

会員番号

1234567

申請者氏名

〇〇 △△

症例番号	病院名	日本口蓋裂学会	初診年齢	19 歳	図
1	原疾患名	両側性口唇口蓋裂			術前 歯式 76543 1 1 345678 <hr/> 765 321 12 3 567
	補綴的診断名	顎裂および前歯部の欠損による審美障害			
治療記録					
<p>1歳頃口唇閉鎖術 (本学口腔外科) 3歳頃に口蓋閉鎖術 (本学口腔外科) 10歳頃口唇修正術, 矯正治療開始, (口腔外科、矯正歯科) 16歳時に下顎後退術施行. (本学口腔外科) 22歳時, 4┐ - ┌5 コーヌス義歯装着 23歳時, 動揺度2の下顎 ┐23に対して, 固定のための接着ブリッジを接着性セメントにて接着. その他のカリエス処置後メンテナンスに移行. 毎年1回、歯科衛生士と連携して口腔ケアと義歯のメンテナンスを実施 現在術後31年経過、支台歯の歯肉退縮を認めるが、上顎コーヌスブリッジは経過良好。</p>					術後 歯式 765 ④③2① ①2③④⑤ 67 <hr/> 765 321 1 ②2③ 567 ④③2①①2③④⑤ はコーヌスブリッジ(可撤性ブリッジ)製作 下顎は根管治療を行ったため接着性ブリッジを再製作。

症例番号	病院名	初診年齢	37 歳	図
2	原疾患名	右側口唇口蓋裂		術前 歯式 ⑦⑥54③2① ①③④⑤⑥⑦
	補綴的診断名	前歯部補綴装置不適による審美、咀嚼障害		7654321 1234567
Cr				術後 歯式 ⑦⑥ ① ① ④⑤⑥⑦
<p>幼少期の口蓋裂の手術歴や矯正治療歴は不明。20歳頃、他院にて上顎前歯部の補綴装置(ブリッジ)を装着したが、その後カリエスが進行して、再補綴治療が必要となった。紹介により当院受診。</p> <p>上顎MBブリッジを除去して、カリエスが進行した3-1 1-3を抜歯し、MBクラウンと金属床義歯を製作した。MBCrには、レストシートおよびガイドプレーンを付与し、前歯部には支台装置を設置せずに、支持と把持機構を重視したCo-Cr床の金属床義歯を製作した。</p> <p>術後は歯科衛生士と連携して、半年ごとに口腔ケアと義歯のメンテナンスを行っている。現在、術後8年。補綴装置の経過は良好。</p>				<p>5432-1 1-3欠損部は金属床を製作、前歯部にクラスプを設置しないように設計した審美性に考慮したパーシャルデンチャー。</p>